

日本農学図書館協議会誌 173号 (2014年3月)

目次

東京農業大学アカデミアセンター その視点の先には —教育の理念を支える知のシンボルとして— 合田豊二	1-5
農業関連の文献データベース AGRIS のリニューアルについて 井上亜紀子	6-8
《いまどきデータベース》 歴史的農業環境閲覧システムと迅速測図の公開 岩崎亘典	9-15
【農学系図書館探訪】 慶應義塾大学三田メディアセンター 慶應義塾図書館	10-18
<図書館員のためのお役立ち情報>	19-21
事務局報告	22
・平成 25 年度第 4 理事会議事録 ・主な取組み	

Bulletin of the Japan Association of Agricultural Librarians and Information Specialists

No.173

March , 2014

ISSN 1342-1905

CONTENTS

Tokyo University of Agriculture Academia Center Our vision for the future — A symbol of knowledge, supporting our educational philosophy — Akiko INOUE	1-5
Renewal of AGRIS as an agricultural bibliographic database Hiroji FUJISHIMA	6-8
《An Introduction to New Database》 Development of Historical Agro-Environmental Browsing System and dissemination of Rapid Survey Map. Nobusuke IWASAKI	9-15
【Visit to Agricultural Library】 Keio University Mita Media Center	16-18
< Useful Information for librarians >	19-21
Note from JAALD	22

東京農業大学アカデミアセンター その視点の先には — 教育の理念を支える知のシンボルとして —

Tokyo University of Agriculture Academia Center Our vision for the future
— A symbol of knowledge, supporting our educational philosophy —

合田 豊二*

1. はじめに

新しい年が明けて早々に、日本農学図書館協議会副会長の惟村直公先生からお電話をいただいた。内容は、本学において昨年末に竣工したばかりの新図書館棟「農大アカデミアセンター」を紹介する原稿の依頼であった。農図協の会誌に掲載したいとのことであり、農学を中心に自然科学系の総合大学である本学を広く知っていただける良い機会をいただいたと思い、ご依頼を引き受けることとした。

ここでは、東京農業大学の紹介から、キャンパス再整備計画での新図書館棟建設に至る経緯、基本設計から実施設計に係る基本コンセプトなどを紹介していきたい。また、苦心惨憺の連続であった図書館の引越し作業や仮設図書館での運営に係る苦労話についても触れていきたい。

2. 東京農業大学の生い立ち—二人の学祖—

東京農業大学は明治24年(1891)、東京飯田橋に育英黌農業科として産声を上げた。その生みの親は旧幕臣



写真1 新図書館棟と新講義棟
(左側の高い建物が新図書館棟)

で幕末から明治にかけて新国家建設に力を尽くした榎本武揚である。

その後、育英黌農業科は、東京農学校、東京高等農学校と名を変え、大塚窪町、渋谷常磐松と場所を変えつつ拡充の歴史を歩むことになる。すなわち、榎本武揚は本学の「生みの親」である。

育英黌農業科が東京農学校と改名後、明治30年(1897)に、その経営を榎本から引き継いだのが、当時、新進気鋭の農学者で、わが国近代農学の始祖である横井時敬である。

横井の強い指導の下で、大正14年(1925)、大学令に基づく正規の大学として認められた。初代学長についた横井は以降、実学思想による農業教育の礎を築いた。すなわち、横井時敬は本学の「育ての親」である。

3. 現在の東京農業大学

本学では、初代学長横井時敬が掲げた、建学の精神「人物を畑に還す」、教育の理念「実学主義」を継承しながら、教育・研究・地域貢献を推進しており、現在、全国に3つのキャンパスを設置している。東京の世田谷キャンパス・神奈川県厚木キャンパス・北海道のオホーツクキャンパスである。大学・短期大学部合わせて6学部21学科、大学院は2研究科19専攻が設置されており約14,000名の学生たちが学んでいる。

また、教育の理念である「実学主義」を具現化するために、実践を伴う実験・実習・演習施設も全国に所有している。北海道の網走寒冷地農場、東京都の奥多摩演習林、神奈川県伊勢原農場、静岡県富士農場、沖縄県の宮古亜熱帯農場などである。

最近は、「食料」「環境」「健康」「バイオマスエネルギー」をキーワードに「緑と生命を科学する」というテーマを

* 東京農業大学 図書館 〒156-8502 東京都世田谷区桜丘1-1-1

Toyoji GODA, Tokyo University of Agriculture Library, 1-1-1 1-1-1 Sakuragaoka Setagaya-ku, Tokyo, Japan 156-8502

掲げ、生物資源のゲノム解析なども含めた幅広い領域を対象に、世界水準の学術研究の推進、農業及び関連産業の将来を視野に入れた教育・研究・地域貢献体制の強化を図っている。

4. キャンパス再整備計画

昭和21年(1946)に、渋谷常磐松から世田谷の現在地(旧陸軍機甲整備学校跡)に移転が完了してから70年近くが経っており、建物の老朽化が進むとともに、新学科設置等に伴う各種施設の乱立により、学生・教職員の導線など数々の問題が派生していった。そのような中で、早期に中・長期的な視野に立ったキャンパスの再整備を望む声が学内で高まっていった。

また、来たる平成28年(2016)に創立125周年を迎えるのに当たり、国際的な教育機関としての機能を一層高め、世界の農学の拠点大学として飛躍することを目指し、短期大学部醸造学科の研究棟や新講義棟の建設、老朽化した建物の解体、新研究棟の建設計画など、現在、キャンパスの再整備が着々と進行している。

5. 新図書館棟建設の経緯

キャンパス再整備計画の中で、最も特徴的なのが今回紹介する新図書館棟である。

旧図書館は、昭和43年(1968)に竣工してから既に40数年が経っていたため、建物の老朽化が進むとともに、年々増えていく蔵書・資料等を収納するスペースが手狭になり狭隘化に頭を悩ませていた。また、東日本大震災においても、甚大な影響を被っており、早急に新棟建設を目指す必要性に迫られていた。

そのような背景から、本学が世界に向けて教育・研究・地域貢献の成果を発信するとともに、東京農業大学の新しい「知のシンボル」として相応しいデザインの建物となることを目指して建設計画に着手したのである。

6. 新図書館棟の基本コンセプト

農大のアイデンティティーを具現化した新しいシンボルである、新図書館棟「農大アカデミアセンター」は、蔵書数約100万冊、座席数約1,000席の規模を有する図書館機能を中心に大学本部機能等も含む、オール農大の中核となる複合施設である。建設場所は、世田谷キャンパスの象徴的空間として親しまれている樹高約20m以上の木々からなる「農大の森」に隣接しており、この森を尊いものとして、一体となることをテーマとした。外装は、土のイメージを喚起させる大型テラコッタスク



写真2 新図書館棟の1F エントランスフロア

リーンやルーバー、荒壁風タイル壁、焼杉模様のPC庇などで構成している。内装には、カバザクラ(北海道産)の書棚壁面に包まれたセンターコアや中央吹き抜けをはじめ、全館に積極的に国産材を中心とした木質系仕上げ材を採用する一方、久住直生による土壁なども用いている。このように、内外部に木や土の素材を感じさせるつくりとすることで、既存の森と連結させ、あたかも巨大な樹木の中を立体的に散策するような空間を演出している。このほか環境面では、庇や高遮断熱ガラスによる熱負荷低減、自然通風装置や太陽光集光装置の採用などによる省エネ配慮、武蔵野の里地里山をイメージした地上約40mにある空中庭園など、環境性能やアメニティ性の高い施設計画となっている。

7. 新図書館棟の概要

森の中にたたずむ巨大なツリーハウスをイメージした、新図書館棟「農大アカデミアセンター」は、先に完成した新講義棟とともに、農大の森から連続する森を作る2本の大樹・シンボルツリーとして建てられている。

その全体概要は、以下のとおりである。

- ・主要用途 図書館、大学事務局、法人本部、講堂
- ・敷地面積 125,612.35㎡
- ・建築面積 2,145.68㎡
- ・延べ面積 18,127.26㎡
- ・階数 地下2階 地上9階 搭屋1階
- ・最高高さ 47.85m
- ・構造 鉄骨造り 一部CFT造
- ・工期 2011年12月～2013年11月

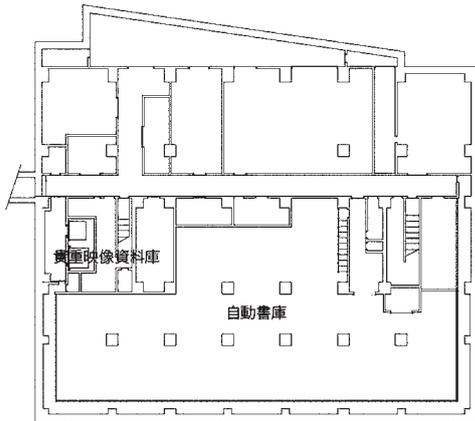
また、図書館については、散策性とそれによる様々な出会いを生む空間づくりをイメージしている。各フロアは、国産材で仕上げた本棚に囲まれ、あたかも巨木の間を立体散策するかのように感じる。また、外周部の窓回

りには、個人閲覧テーブルを配し、森と連続し、木立の中を浮遊しているような疑似体験ができる、まさに、空中図書館である。

以下に、その図書館部分について説明したい。

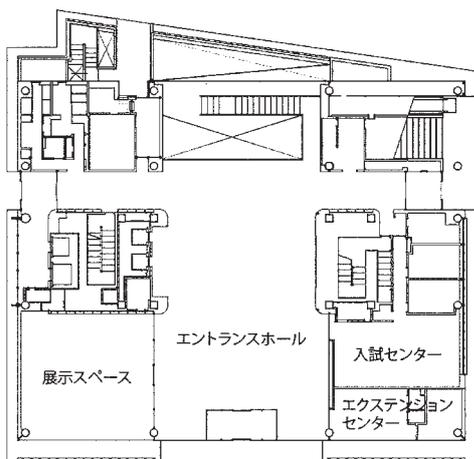
【B2F】

地下2階には、60万冊収納可能な自動書庫があり、3階及び4階に自動書庫との連絡カウンターが設置されている。また、明治・大正期の卒業論文のマイクロフィルムなど貴重な資料等を保存する貴重映像資料庫がある。



【1F】

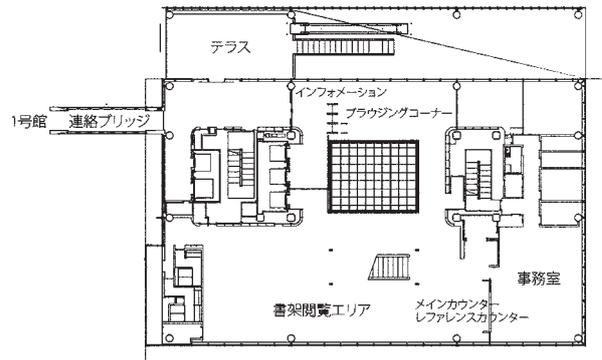
1階のエントランスを入って左側には、図書館情報管理部（大学史資料室）が管理運営する展示スペース「実学の杜」がある。ここは、建学のころ・二人の学祖・農大のあゆみ・農大の取り組みとマンパワー・リラクゼーションスペースの5区画で構成されている。



【3F】

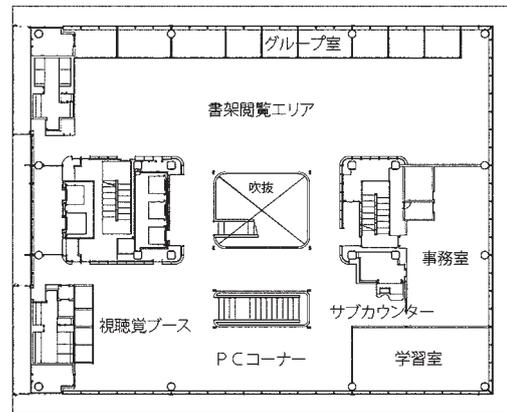
図書館へのメインの出入り口があり、入退館ゲート、インフォメーションカウンター、ブラウジングコーナー、メインカウンター、レファレンスカウンター、事務室が

配置されており、参考図書と統計資料が閲覧できる。



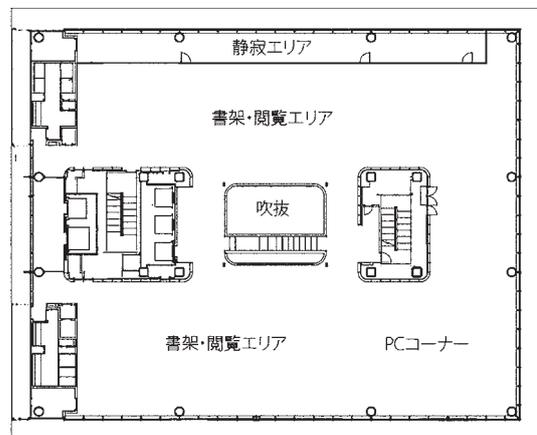
【4F】

サブカウンター、PCコーナー、グループ室、学習室、視聴覚ブース、事務室が配置されており、新着学術雑誌・紀要・報告書、指定図書、教員著書、視聴覚資料、新書、和書—自然科学分野が閲覧できる。



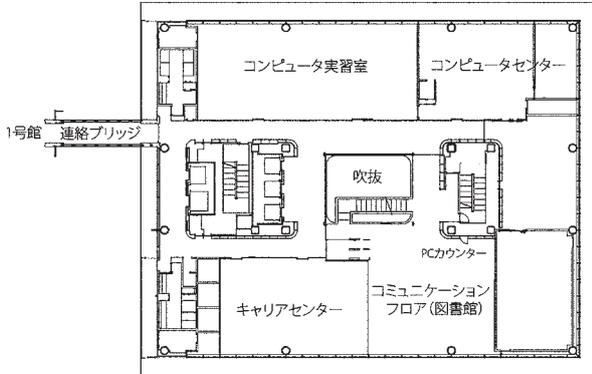
【5F】

静粛エリア、PCコーナーが設置されており、和書—総記、和書—哲学、和書—地理、和書—社会科学、和書—技術・工学、和書—産業、洋書が閲覧できる。



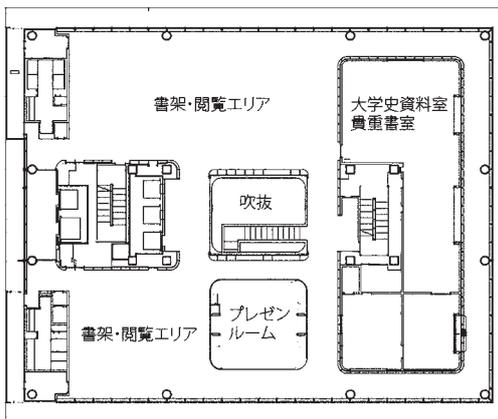
【6F】

図書館への出入り口があり、入退館ゲート、PCカウンター、コミュニケーションフロアが設置されている。なお、このフロアでは、学生がフレキシブルに利用できるように汎用性を高めた運用を目指している。



【7F】

プレゼンテーションルームと大学史資料室・貴重書室が設置されており、和書－歴史、和書－芸術・美術、和書－言語、和書－文学、製本雑誌が閲覧できる。



8. 新図書館棟のこれから

図書館の今後を語る前に、苦勞の連続だった仮設図書館への引っ越しや仮設図書館に係る苦勞話について簡単に触れたい。

引っ越し準備で一番苦勞したのは、提供資料を外部書庫と仮設図書館とへ振りわけることであった。仮設図書館は、使われなくなった教室を改造したものであり、スペース狭隘化の中で、農大生が頻繁に使うであろうと思われる資料を判断し、仮設図書館の開架式書架に配架しなければならないため、その判断に苦慮した。また、コンピュータなどの利用者端末機の設置に関しても、限られたスペースの中で如何に効率よく配置するかに頭を悩ませた。

仮設図書館での運用については、外部書庫とのやり取りに問題が生じた。リクエストのあった資料が宅配業者のミスで約束の時間に届かなかつたり、他の荷物から漏れ出た液体に大切な資料が汚損されたりした。また、至急を要するリクエストには、資料自体を宅配便でやり取りせずに、外部書庫で必要な部分だけPDFを作成しメール添付で送信するシステムを導入した。しかし、当初は解像度に難があり必要な部分が読み取れないという問題が起こった。PDFを取る際の担当者の技術的な問題もあり、このシステムが軌道に乗るまでには、暫くの時間を要した。

次は、今後の図書館運営についてである。農大は、ご存知のように殆どが理科系の学部学科で構成されており、3年生になると学生たちは必ず研究室に所属しなければならない。卒業論文のテーマに沿った実験等が必須であり、学生は朝から晩まで研究室やフィールドで活動しているわけである。

つまり、今までの農大生は、必要最小限でしか図書館を利用しない傾向にあった。これは、どこの理科系大学にもある傾向なのかもしれないが。

新図書館では、そのような利用者の掘り起しも十分考慮し設計されている。昨今流行りのラーニングコモンズなどの空間を多く設けており、学生たちが今まで以上に、気軽に図書館に足を運び、自ら能動的・積極的に学習しようという仕掛けである。そのための導線にも配慮し、1年半前に竣工した新講義棟と新図書館棟が2・3階と6階の空中回廊で結ばれている。

しかし、ハード面ばかりがいくら充実しても利用者サービスには繋がらないのである。ソフト面、つまり、図書館の運営がこれからの課題である。

御多分に漏れず、本学においても職員数の削減、それによる業務委託化の波に晒されている。サービス提供業



写真3 新図書館棟の内部フロア

務と管理運営業務が完全に切り離され、職員が直接、利用者と接する機会がなくなっている。勿論、私立学校である以上、法人経営の合理化・効率化を高めるのは吝かではない。

そのような状況の中で、利用者のニーズや意識を把握しながらその内容を熟考し、サービスの提供内容と経営性のあるバランスのとれた図書館運営を目指していかねなければならない。このことは、今後の大きな課題である。

9. おわりに

新図書館建設の初期計画に入った時に、使われた一言がある。それは、「百年使える図書館を建てよう」である。

実際のところ、百年使えるかどうかは分からないし、農大が、いや日本という国が百年後にどうなっているかは見当もつかない。しかし、その言葉には、現在の農大が建学から百有余年が過ぎ、次の百年に向かって進み続けるという気概の表れがあったのかもしれない。

今回の何十年に一度という大きなプロジェクトに携わってきた者は、全員そのような気概を持って日々取り

組んできたと思う。

この原稿を書いている現在は、まだ、仮設図書館を運用しており、引っ越しの真っただなかであるが、拙稿が掲載された農図協会誌が発行される頃には、新図書館も無事に開館し館内は利用者で溢れかえっていることだろう。

言うは易くではあるが、やはり、農大生に愛される続ける図書館でありたいと強く願う。時代の移り変わりによりサービス内容は変化していくのかもしれない。しかし、農大の図書館として不変なものがある。冒頭に述べた、初代学長横井時敬が掲げた、教育の理念「実学主義」に根付くことである。まさに温故知新であり、その「実学主義」を支え、教育・研究現場の知識の源となるのが図書館である。しっかりと大地に根を張り、学術研究の拠点として、また、ゆるぎない建物として、これからも、在学生・教職員のみならず、卒業生や近隣住民からも愛される「農大の知のシンボル」として輝き続けていきたい。

農業関連の文献データベース AGRIS のリニューアルについて

Renewal of AGRIS as an agricultural bibliographic database

井上亜紀子*

はじめに

農業分野に特化した国際的な文献データベース、AGRIS が 2013 年 12 月 4 日にリニューアルし、公開されました。http://agris.fao.org/ から利用できます。

AGRIS とは「International Information System for the Agricultural Science and Technology」の略名で、FAO (Food and Agriculture Organization of the United Nations = 国際連合食糧農業機関) が世界の約 200 개국及び国際機関の協力のもとに作成・提供している「国際農業科学技術情報システム」であり、農林水産分野に関する世界の文献データベースです。1975 年から構築が開始され、現在では、文献情報を約 760 万件以上収録しています。その収録範囲は農業全般、農業経済、畜産業、林業、水産業、農業工学、環境など農業とその関連分野です。

日本では、農林水産研究情報総合センターがインプットセンターとして国内で刊行される学術雑誌や大学紀要、国公立試験研究機関の報告類より主に原著論文を対象に毎年約 6,000 件の文献情報を採録し FAO に提供しています。

今回のリニューアルでは、最新の情報技術を取り入れ、FAO で共通的に使用されるシソーラス、AGROVOC をキーとして他のデータベースや全文情報とリンクするなどの機能強化が行われました。これにより、農業関連の文献情報に限らず、統計情報など検索結果に関連する情報へのアクセスがより容易になり、情報探索の利便性が高まりました。

FAO では、これまで OpenAGRIS として、AGRIS の検索結果である文献情報と、FAO が提供する統計情報 (FAOSTAT) など他の情報資源とをリンクして提供す

るサービスを 2011 年から試行的に行っていましたが、これを AGRIS2.0 として正式に公開したものです。

トップ画面 (図 1) は、ひとつの検索窓に加えレコード件数などの統計情報、AGROVOC (農学分野のシソーラス) のよく繰り返される検索キーワードランキング、新しく追加されたレコード情報などが表示されるシンプルなデザインとなりました。

例えば、「稲」の学名である“Oryza sativa”で検索した結果からは、以下のような情報が表示されます。(番号は図 2、図 3 の画面内の番号)

・検索結果一覧画面 (図 2) でのファセット表示 (絞り込み項目)

- ① 使用されている AGROVOC のキーワード上位 10 件とそれぞれのヒット件数
- ② 入力を行った国とヒット件数
- ③ 書籍、会議録、学術論文、学位論文など文献の種類
- ・検索結果詳細画面 (図 3) から他の情報資源へのリンク
- ④ Google の検索結果を基にした本文 PDF または関連文献へのリンク
- ⑤ World Bank (世界銀行) の国別の穀物収量統計 (出典:)
- ⑥ 地球規模生物多様性情報機構 (GBIF) のイネ品種の分布図
- ⑦ DBPedia (Wikipedia から構造化された情報を抽出して Linked Open Data 化したもの) からの用語集

検索方法についての詳細は、ヘルプ (http://agris.fao.org/agris-search/search/search_help.html) をご参照ください。

* 農林水産研究情報総合センター 〒305-8601 茨城県つくば市観音台 2-1-9

Akiko INOUE, Agriculture, Forestry and Fisheries Research Information Technology Center, 2-1-9 Kannondai, Tsukuba, Ibaraki, 305-8601 Japan

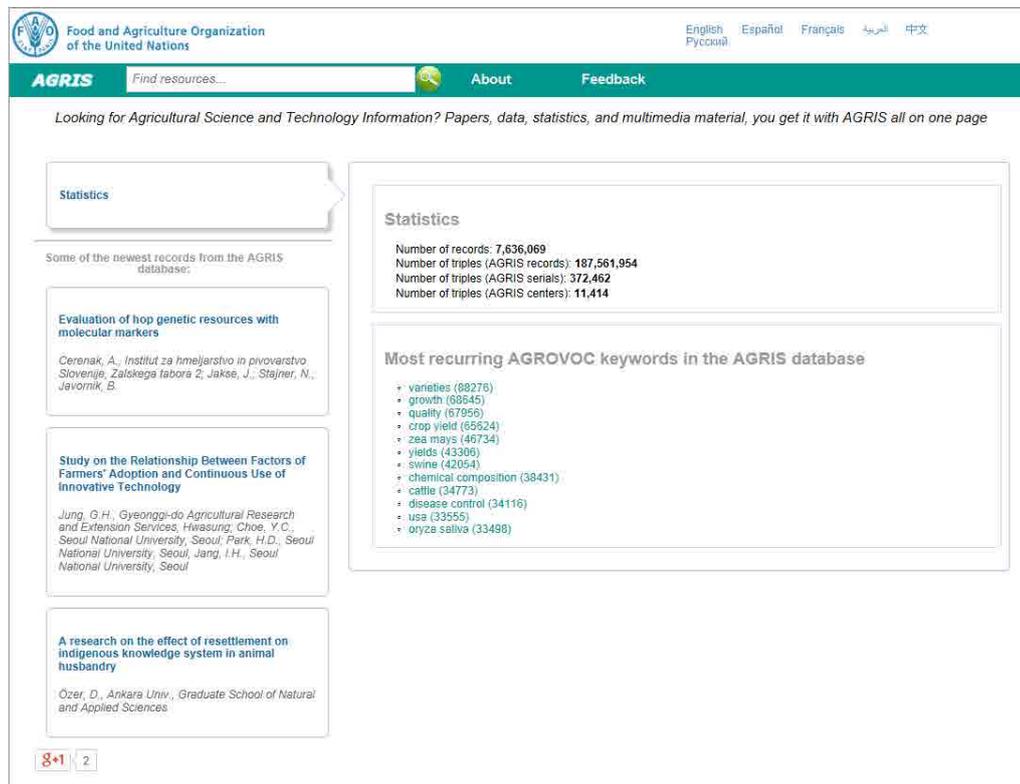


図 1 トップ画面 (機能強化の概要)

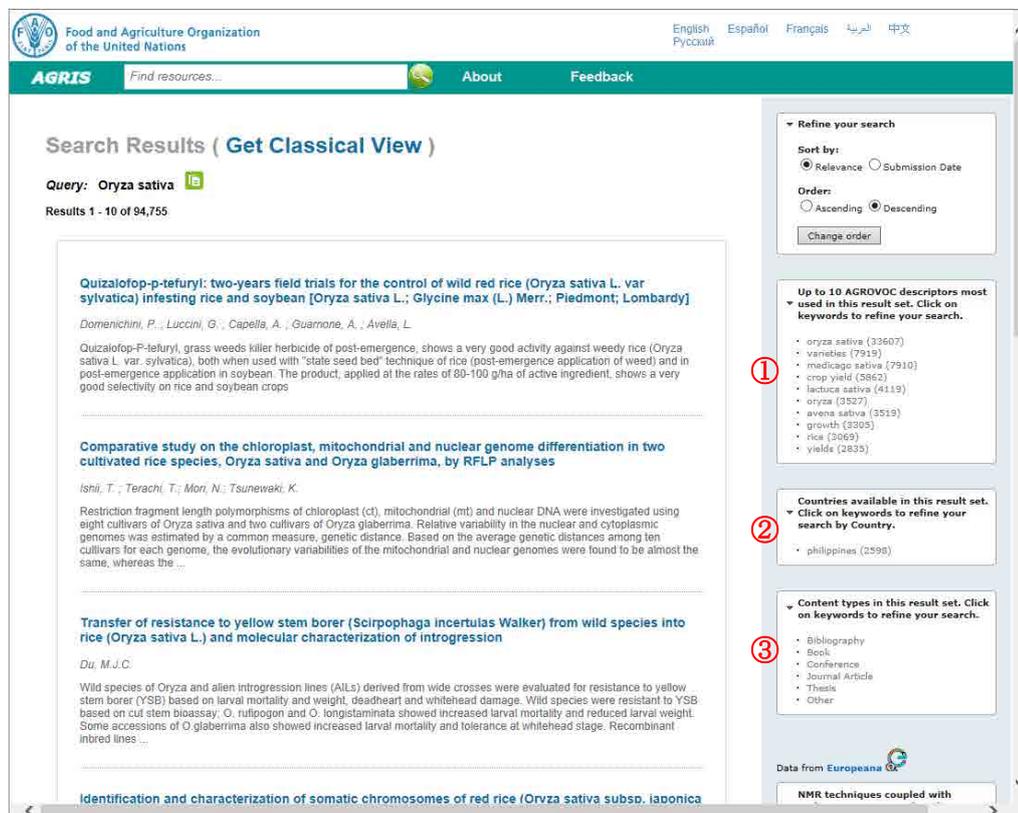


図 2 検索結果一覧画面。「Get Classical View」から従来の形式での表示も可能。

"Milky Queen, a new high-quality rice cultivar with low amylose content in endosperm."

Imbe, T., Horisue, N., Numaguchi, K., Akama, Y., Hata, T., Tise, K. (National Inst. of Crop Science, Tsukuba, Ibaraki (Japan)), Furutachi, H., Ando, I., Yokoo, M., Nemoto, H., Suto, M., Nakane, A.

Abstract:
 "We developed "Milky Queen", a new rice cultivar with a low amylose content in the endosperm. Low-amylose plants were selected from the progeny after treatment of "Koshihikari" with a chemical mutagen, N-methyl-N-nitrosourea. A mutant line from the M7 generation was named "Kanto 168", and evaluated in collaboration with 45 prefectural experiment stations from 1992 to 1994. Kanto 168 was registered as Paddy Rice Norin 332 and named Milky Queen by the Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries in 1995. The main reason for releasing Milky Queen is that its grain is superior to that of Koshihikari in terms of cooking, eating, and processing quality. The amylose content of Milky Queen ranged from 9.1 to 12.2%, averaging 10.1%. The amylose content of Milky Queen was approximately 60% of that of Koshihikari, averaging 17.5%. Taste panelists at NARC rated Milky Queen as superior to Koshihikari, for plain steamed rice, cooked rice balls, and boiled rice with assorted ingredients. Major agronomic traits of Milky Queen were nearly equivalent to those of Koshihikari in paddy fields. Grains of Milky Queen were characterized by a dull endosperm intermediate between waxy and nonglutinous endosperm. Brown rice seeds of Milky Queen were slightly smaller than those of Koshihikari. The single brown rice weight of Milky Queen was 19.8 mg and that of Koshihikari, 20.5 mg.

Read More

Agrovoc Keywords
 - Oryza sativa
 - Rice
 - Quality
 - plant genetics
 - Varieties
 - Amylose
 - Plant physiology

Sakumotsu Kenkyuujo kenkyuu houkoku (Journal)
 START DATE: 2001
Source:

Identification of an Isogenic Semidwarf Rice Cultivar Carrying the ...
 Aug 1, 2013 ... The rice cultivar Hikanishinsei, a semidwarf isogenotype of Koshihikari carrying the Green Revolution sd1 gene, is increasingly grown in both ...
 Go to the page

Data from collecting missions supported by Bioversity international
 Expedition to Northern India 1976
 Netherlands-Pakistan Germplasm Expedition to Chitral and Swat (Pakistan) 1976
 The Plant Collecting Expedition of Ghana
 Plant Exploration in Liberia

Data from www.nature.com
 Why plant physiology suffers in India
 Shaping a better rice plant
 Other books on plants
 Plant growth: Wide rice

Data from DBpedia:
 - Amylose
 - Plant genetics
 - Oryza sativa
 - Plant breeding
 - Plant physiology
 - Rice

Cereal yield (kg per hectare)
 178 74,210

Oryza sativa distribution map. Data from Global Biodiversity Information Facility (GBIF)

図3 検索結果詳細画面。画面右に関連情報が表示されている。

このほか、FAOではAGROVOCの全データをダウンロード可能な形で公開(<http://aims.fao.org/standards/agrovoc/about>)する、AgriDrupal, AgriOcean DSpaceなど情報構築用のツールを無償提供するなど、情報分野での取り組みを強化しています。これらについての最新の情報は、FAOが運営するWebサイト、Agricultural Information Management Standards (AIMS; <http://aims.fao.org/>)をご覧ください。

引用文献:

林賢紀. 農業関連の文献データベース AGRIS とそのリニューアルについて. カレントアウェアネス -E, No.252, 2014. <http://current.ndl.go.jp/e1523> (最終アクセス: 2014-01/23)

Release of AGRIS 2.0: Searching agricultural bibliographic data. (AGRIS2.0の概要を紹介するAIMS Webinar資料) <http://www.slideshare.net/faoaims/agris2> (最終アクセス: 2014-01/23)

歴史的農業環境閲覧システムと迅速測図の公開

Development of Historical Agro-Environmental Browsing System
and dissemination of Rapid Survey Map.

岩崎亘典

1. はじめに

迅速測図とは、三角点による測量網ができる以前の簡易的な測量法の名称であるとともに、それにより作製された地図の総称でもある¹⁾。なかでも、「第一軍管地方二万分之一迅速測図原図」(以下、迅速測図)は、関東平野と三浦、房総の両半島を測量範囲とし明治13～19年の間に作製されたものである。この迅速測図は縮尺が1/2万であることや、地目ごとに彩色されていることが特徴であり(図1)、急激な近代化が進む以前の関東地方の伝統的土地利用の復元や、農耕地の歴史的变化

を把握する上できわめて重要な資料である。農業環境技術研究所ではこの迅速測図を用いて、農業環境における土地利用変化に関する研究を行ってきたが^{2),3)}、この資料のさらなる利用と研究の促進をはかるため、歴史的農業環境閲覧システム(Historical Agro-Environmental Browsing System、以下HABS)を開発し、2008年4月より公開している⁴⁾。本稿では、このHABSの開発と利用について概説する。

2. 歴史的農業環境閲覧システム(HABS)の構築

まず、地理空間データベースについて簡単に説明する。近年のICT技術の進化に伴い、様々な地理空間データベースがインターネット上で公開されている。これらのデータベースは以下の3つに分類することができる。

1. 画像として地図を収集、公開しているデータベース
2. 地理情報システム(GIS)のデータを集めたデータベース
3. インターネットやGISソフトで使うためのデータやサービスを提供しているデータベース

形式1としては「徳島大学付属図書館貴重資料高精細デジタルアーカイブ⁵⁾」や「国土地理院古地図コレクション⁵⁾」がある。これらのデータは、画像としての閲覧を主な目的としている。形式2としては、国土交通省国土数値情報⁶⁾、国土地理院基盤地図情報⁷⁾、環境省植生図⁸⁾などがある。形式2で提供されているデータは地理情報システム(GIS)と呼ばれるソフトウェアを用いることにより、表示や分析を行うことができる。形式3としては、Google Mapsや地理院地図⁹⁾などがあげられる。この形式では、定量的解析等を行うことは困難であるが、様々なソフトウェアで利用することが可能であるとともに、他の地理空間情報との比較が容易なことが

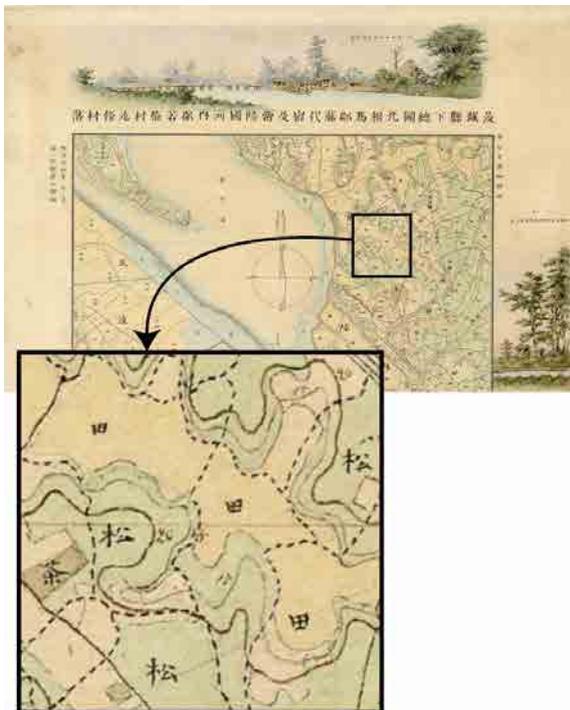


図1 茨城県牛久市牛久沼周辺の「迅速測図」。上図の四角を拡大したのが、下図になる。土地利用毎に彩色され、地目も記載されている

* 独立行政法人農業環境技術研究所 〒305-8604 茨城県つくば市観音台3-1-3

Nobusuke Iwasaki, National Institute for Agro-environmental Sciences 3-1-3 Kannon-dai, Tsukuba, Ibaraki, 305-8604

特徴である。

迅速測図の公開に当たっては、ユーザーの利便性と地理空間情報としての活用性を考え、形式3の地理空間データベースを構築することとした。すなわち形式1の場合は、利用が画像の閲覧に制限され、地理空間情報すなわち位置情報を持った電子データとして利用することが困難であり、形式2の場合はデータを利用するためにGISの利用法を習得する必要がある、利用者が限られてしまうためである。

本システムでは、データの閲覧にはWebブラウザを使用し、ユーザーが別途ソフトウェアを導入しなくても迅速測図を利用できることを必要要件とした。また、このように農業環境に関する情報を利用しやすい形で発信することは、研究のみでなくNPOやNGOなどの活動の中でも求められるだろう。そこで、構築したシステムが他の目的や運営主体でも利用できることが望ましい。そこで本システムを構築するに当たっては、FOSS4G (Free and Open Source Software for Geospatial) と呼ばれるオープンソース・ソフトウェアを利用することとした。FOSS4Gは無料で入手することが可能であるとともに、ソフトウェア自体を改良や再配布が可能なのが特徴である。公開に当たっては迅速測図単体ではなく、現在の地理空間情報との比較が可能の方が利便性が高いと考え、現在と過去の位置を比べる

ために道路・水涯線・鉄道を、土地利用を比較するために国土数値情報の1997年の土地利用1/10細分メッシュをシステム上で閲覧可能とすることとした。

さて通常GISで使用するデータは、画像ファイルであるTiff形式や、GIS特有のファイル形式であるshapeファイル形式で整備される。しかしこれらのデータは、Webブラウザで直接利用することができない。そのため、インターネット上で地図データを提供する場合、これらのデータをWebブラウザで閲覧可能なファイル形式に変換する必要がある。この変換は、ユーザーからリクエストがある毎に変換を行う形式と、事前に変換したファイルを準備しておく場合の二通りがある。HABSでは、Tile Map Service (TMS)¹⁰⁾に準拠した画像データを事前に整備する方式を採用している。TMSでは、縮尺毎に256×256ピクセルの地図画像を事前に生成し、リクエストに応じて準備された画像を表示している(図2)。TMSを初めとするタイル地図形式は、現在では多くのソフトウェアが対応しており、利便性が高い形式である。

地図データをWebブラウザ上で表示するGISクライアントとしてJavascriptで動作するOpenLayersを採用した。また、共同研究を行っている近畿中国四国農業研究センターからは、地理空間フォーマットの国際標準化団体であるOGC (Open Geospatial Consortium)

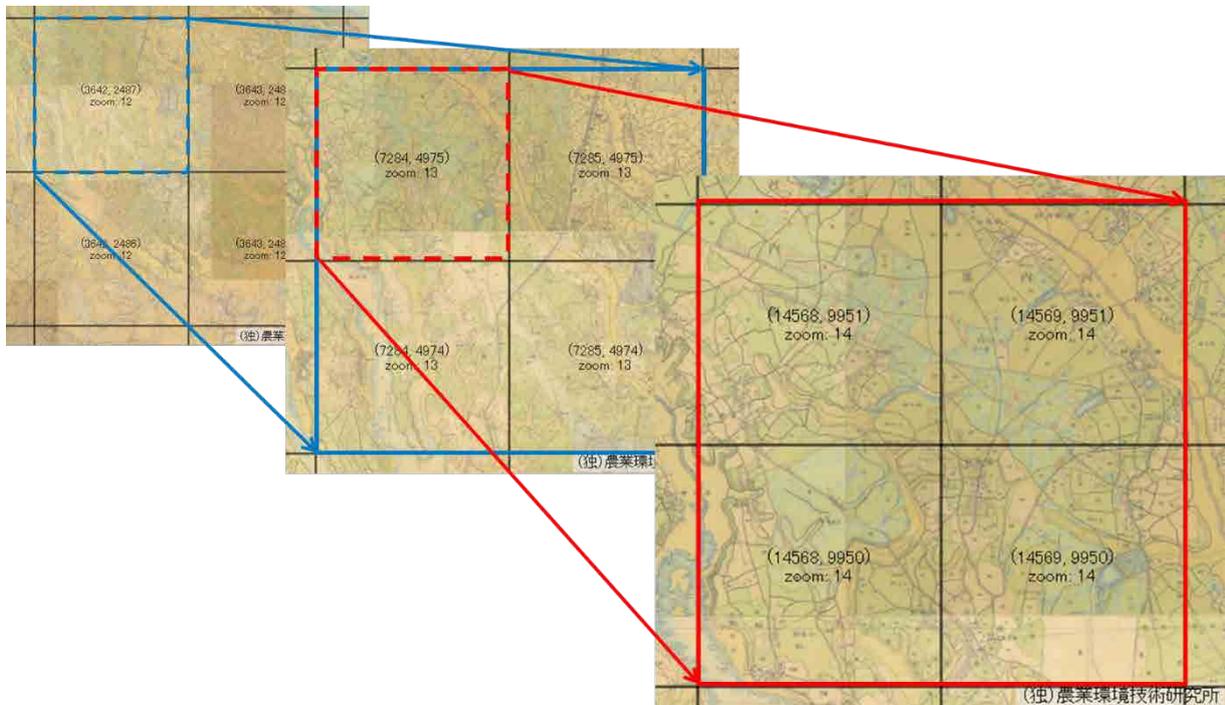


図2 タイル構造の概念図。一枚のタイル(256×256px)をズームインすると、4枚のタイルにより構成されている。

により承認された Web-GIS 用標準インターフェイスである WMS (Web Map Service) でもデータを配信している¹¹⁾。これにより、OpenLayers のみでなく、FOSS4G のデスクトップ GIS である QGIS や、プロプライエタリ GIS である ArcGIS などからも迅速測図のデータを利用することが可能である。

次に、迅速測図のデジタルデータ作製について、説明する。迅速測図は紙媒体で配布されており、全部で約 900 枚ある。まずこの地図をすべてスキャナーで読み込み、デジタル画像化した。Web GIS 上でこのデータを利用するためには、これらの画像に位置情報を与える作業（幾何補正）を行う必要がある。幾何補正を行うためには、一枚の地図毎に最低四カ所の、現在の地図との共通点を見つける必要がある。しかし、迅速測図の時代と現在の地図では土地利用が大きく変わっている場合もあり、これらの作業を 900 枚の地図すべてに行うには多大な労力がかかる。そのため、以下の手順で幾何補正を行うこととした。迅速測図は皇居の富士見櫓を原点として、一枚の地図の測量範囲が東西 4km、南北 5km の格子状になっている。そこで、それぞれの地図に富士見櫓からの距離に基づき位置を与えた。その上で、隣接する画像間で大きなずれが無い範囲で一枚の画像に合成した。この合成画像について現在の地図上との共通点を見つけ出し、JGD2000 測地系、UTM54 帯の位置情報を与えた。

この画像を一枚のデータに合成した後、gdal2tiles を用いて TMS データ生成した。なお、gdal2tiles では、タイル画像を Google Earth 上で閲覧可能な KML ファイルも生成できるので、同時に作成した。道路・水涯線・鉄道については Tilemill を用いてタイル画像を作成し、土地利用についてはラスタ形式の画像データを GRASS GIS を用いて作成した後に、gdal2tiles を用いてタイル画像を作成した。これらのデータを OpenLayers 上に表示するためのスクリプトを作成し、2008 年 4 月 21 日に一般に公開した。

3. HABS の利用方法

Web ブラウザーを使用して本システムを利用するためには、Web の検索サービスで「HABS」または「歴史的農業環境閲覧システム」と検索するか、「http://habs.dc.affrc.go.jp」を入力することにより、図 3 のトップページにアクセスできる。この画面で、中段左の地図上の地名をクリックするか、中段右の地名をクリックすると、選択した地点の周辺が拡大表示される（図 4）。地図の表示範囲や縮尺の変更は、左上の矢印やスケールバーを使うか、ドラックやマウスのホイールを使用する。地図が表示されている枠の右上の「+」記号をクリックすると、背景画像および重ね合わせデータを選択できる。背景画像としては前述の迅速測図、土地利用図（1997

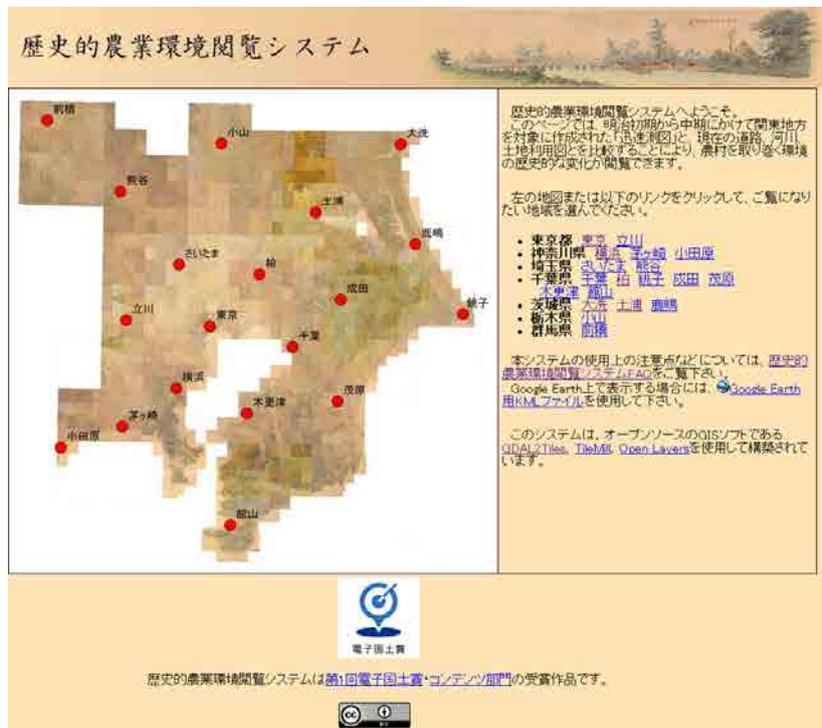


図 3 HABS トップページ。地図もしくは画面右の地名をクリックした周辺の迅速測図が表示される

年)の他に、1/5千1東京測量原図、国土地理院から提供されている地形図および空中写真、近畿中国四国農業研究センターにより公開されている基盤地図情報(1/25,000)を選択することができる。また、重ね合わせ情報としては、迅速測図の透過表示、道路・鉄道・水涯線の基盤情報、地名を選択できる。さらに、

GoogleEarth上に迅速測図を表示するためのKMLファイル(図5)やQGISのTileLayer Plugin用の設定ファイルも公開している。また、迅速測図には、当時の景観や建物等を描画した視図が、図郭外に記載されている場合もある。これらのデータについても、Google Earth上閲覧できるようにKMLファイルを公開している(図6)。



図4 HABSによる東京周辺の表示例。地図表示画面右にある部分で、表示レイヤを選択できる

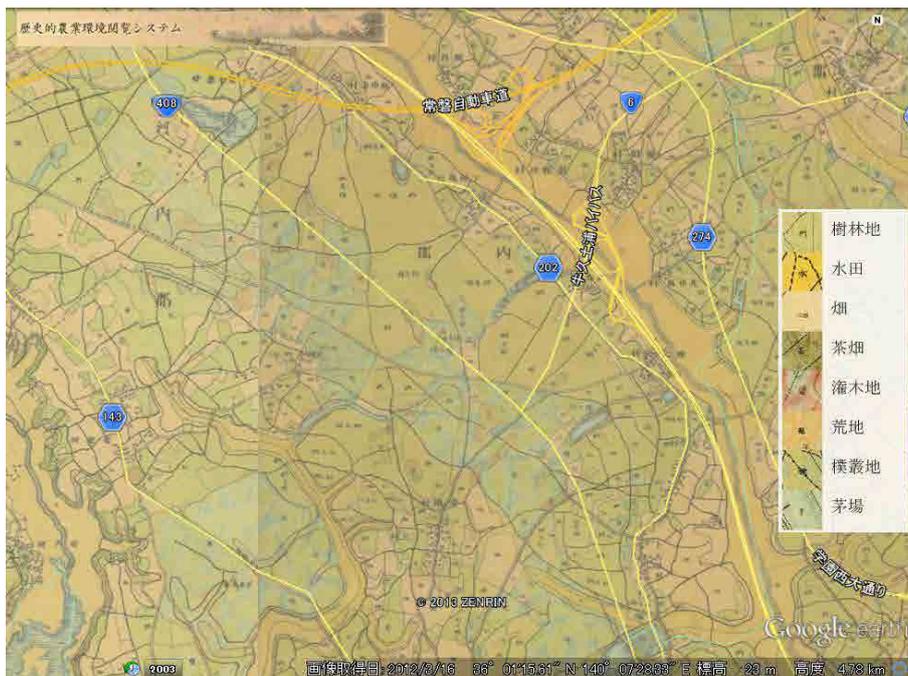


図5 Google Earth上での迅速測図の表示例



図6 迅速測図・視図の表示例。当時の農作業の様子が描かれている

4. HABS の活用事例と今後の改良 ～まとめに代えて～

HABS を公開したことにより、様々な場面で迅速測図が利用されるようになった。Web 上で公開しているデータは、大学や高校の授業など教育の現場で活用されるとともに、データそのものについても、野田市郷土博物館や川崎市東海道かわさき宿交流館の展示への提供を行っている。また、当初考えていなかった利用として、現在は利用されていない道路・隧道の探索や¹²⁾、テレビ番組¹³⁾でも利用されている。また特に防災・減災分野での利用が多く、2011年に発生した東日本大震災に関連して液状化現象の原因究明や、一般市民への情報提供として、国土地理院¹⁴⁾、(独)防災科学技術研究所¹⁵⁾をはじめとし、官民を問わず様々な団体に利用された。これらのことが評価され、2012年には第一回電子国土賞を受賞した。

一方で、現在公開中のデータは画像データであるため、土地利用の定量的評価が困難であることが問題である。そこで現在、JSPS 科研費の援助を受け「関東地方の過去130年間の土地利用・景観変遷データベースの構築と公開」というプロジェクト研究を実施中である。このプロジェクトでは、迅速測図のデータを100mグリッド形式の土地利用データとして整備するとともに、視図などの景観情報もデータベース化し、公開すること

を目的としている。現在までに房総半島南部を対象にデータ入力を行っており、その結果からも現在とは土地利用が大きく異なることの定量的評価が可能となりつつある(図7)。本プロジェクトの実施により、迅速測図や過去の土地利用のさらなる利用や、重要性への理解がさらに進むことが期待される。

また、これらの公開データについては、2013年よりオープンデータライセンスの一つである「クリエイティブ・コモンズ表示 - 2.1 日本ライセンス」で提供している。これは、出典を明示すればどのような用途であっても利用が可能なライセンスであり、利用者にとっても、提供者にとっても、利用許諾に関わる手続きを簡略化することができる。これにより、商用・非商用を問わずさらに多くの分野で利用が進むことも期待される。

さて、本システムでは、FOSS4G と呼ばれるオープンソースのGISを利用していることが特徴である。オープンソース・ソフトウェアは無料で入手できることが注目されるが、それ以上に重要な点として、用途・目的を問わず、様々なソフトウェアを組み合わせる利用できることがある。また、資料法に関する資料等もインターネット上で公開されており、本システムの構築はこれらを参考に筆者自身が行っている。このようなデータベースの構築に当たっては、データやシステムの更新が重要である。本稿では詳しく解説しなかったが、HABSについて

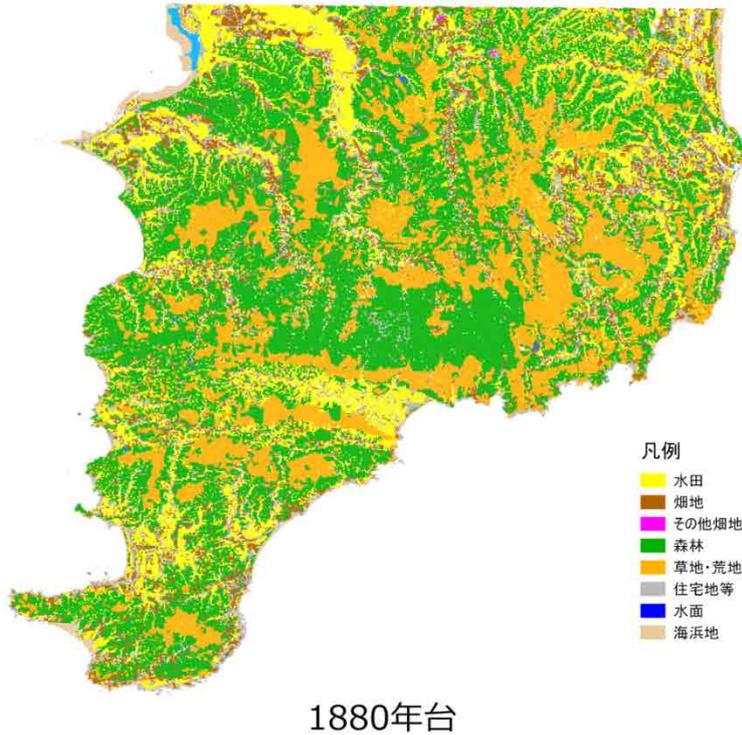


図7 房総半島南部の1880年代の土地利用図。広い範囲が草地・荒地であるのが読み取れる

も、公開以来使用するソフトウェアの変更や、データの更新を行っている。特に近年、Web上の公開システムについては、セキュリティの強化が求められている。このような状況下では、山田¹⁶⁾が指摘するように、システム構築を外部に委託することはシステムの改良やセキュリティ更新、データのアップデート等に運用資金が必要となることを意味し、継続性の担保が困難である。実際、資金の問題により、継続されていないデータベースは枚挙に暇がないだろう。本システムでは、FOSS4Gを利用することにより、高度な技術を利用すること無く、小規模ながら継続的にシステムの公開を続けている。今後についても、FOSS4Gを活用することにより、継続的なシステムの公開・改良とデータの更新を行っていきたい。

(Endnotes)

- 1) 財団法人日本地図センター (2003) : 『新版 地図と測量のQ&A』、財団法人日本地図センター、pp.123.
- 2) Sprague, D., Iwasaki, N., Takahashi, S. (2007) : Measuring rice paddy persistence spanning a century with Japan's oldest topographic maps: georeferencing the Rapid Survey Maps for GIS analysis. International Journal of Geographical Information Science 21, 83-95.
- 3) 岩崎亘典・D. スプレイグ (2005) : 房総半島のニホンザル生息拡大地域における土地利用変遷に関する研究. 農村計画学会誌 24, 1-6.
- 4) 岩崎亘典・D. スプレイグ・小柳知代・古橋大地・山本勝利 (2009) : FOSS4G を用いた歴史的農業環境閲覧システムの構築. GIS: 理論と応用 17, 83-92
- 5) <http://kochizu.gsi.go.jp/HistoricalMap/> 2014年1月20日閲覧
- 6) <http://nlftp.mlit.go.jp/ksj/> 2014年1月20日閲覧
- 7) <http://fgd.gsi.go.jp/download/> 2014年1月20日閲覧
- 8) <http://www.vegetation.jp/> 2014年1月20日閲覧
- 9) <http://portal.cyberjapan.jp/site/mapuse4/index.html> 2014年1月20日閲覧
- 10) http://wiki.osgeo.org/wiki/Tile_Map_Service_Specification 2014年1月20日閲覧
- 11) <http://www.finds.jp/wsdocs/hawms/index.html> 2014年1月20日閲覧
- 12) <http://yamaiga.com/tunnel/siroisi/main.html> 2014年1月20日閲覧

- 13) テレビ朝日系列・タモリ倶楽部「千年前のロードマップ奈良・平安時代の東京古道を行く!」、2013年5月放送
- 14) <http://www.gsi.go.jp/common/000061425.pdf> 2014年1月20日閲覧
- 15) [15.http://dil-opac.bosai.go.jp/publication/nied_natural_disaster/pdf/48/48-09.pdf](http://dil-opac.bosai.go.jp/publication/nied_natural_disaster/pdf/48/48-09.pdf) 2014年1月20日閲覧
- 16) 山田 奨治 (2004) : 怪異・妖怪伝承データベースの制作と分析 - 地域・年代分布を中心に -, 東洋学へのコンピュータ利用第15回研究セミナー報告、<http://www.nichibun.ac.jp/~shoji/archives/kutoyo2004.pdf>、2014年1月20日閲覧

慶應義塾大学三田メディアセンター (慶應義塾図書館)

Keio University Mita Media Center

1. はじめに

今回は、東京都港区三田にある慶應義塾大学三田メディアセンター（慶應義塾図書館）を訪問しました。JR 田町駅（山手線、京浜東北線）から徒歩約 8 分、都営地下鉄三田駅（浅草線、三田線）から徒歩約 7 分、赤羽橋駅（大江戸線）からは徒歩約 8 分の場所に三田キャンパスがあり、正門（南門）から入って階段を上つてすぐ右側にメディアセンター（写真 1）がありました。当日は、同センターパブリックサービス部門の木下和彦課長と佐藤康之課長にメディアセンターの概要等について話を伺いました。

2. 大学の歴史・センターの概要

センターの概要に入る前に大学や図書館の歴史について記述します。慶應義塾のはじまりは、藩命により 1858 年（安政 5 年）に中津藩中屋敷内（中央区明石）に蘭学塾が開かれたのが起源で、1868 年（慶應 4 年

/ 明治元年）に芝新銭座（浜松町）に移転。塾名を「慶應義塾」と定め、その後、1871 年（明治 4 年）に旧島原藩邸（三田）に移転しています。図書館は、この時に「月波楼」と呼ばれた部屋が図書室とされたことを起源とされています。建物としては 1912 年（明治 45 年）に竣工・開館した図書館がはじまりで、この建物は現在もなお「旧館」として使用されるとともに、慶應義塾大学のシンボリック的存在にもなっているそうです。

慶應義塾大学メディアセンターは、本部と 6 つのキャンパスにある各メディアセンターから組織されており、職員数は全体で 85 名ほど、三田メディアセンターにはこのうち 25 名ほどが所属しています。組織としては、所長、事務長の下に総務、パブリックサービス、テクニカルサービスの三部門があります。パブリックサービス部門の下には閲覧やレファレンス、雑誌、相互貸借業務、マルチメディア等に担当が分かれています。またスペシャルコレクションといって、貴重書や文書（もんじょ）を扱う担当もこの下におかれています。テクニカルサービス部門は、取書や選書業務などを担当しています。目録は本部の下に部門が設けられ、各メディアセンターの業務が集中化されているとのことでした。

さて、本題の三田メディアセンターは、三田キャンパスにある人文社会科学系の学問分野をサポートするセンターです。蔵書数は約 280 万冊（個人文庫や貴重書、コレクションを含む。）、年間増加数は約 3 万冊、図書購入費は約 6.3 億円、貸出冊数は年間約 30 万冊、入館者数は年間約 70 万人とのことでした。

主な建物は、新館（人文社会科学分野の専門図書館かつ慶應義塾のメインライブラリーとしても機能）、旧



写真 1 メディアセンター外観

* 独立行政法人農業環境技術研究所 〒305-8604 茨城県つくば市観音台 3-1-3

Nobusuke Iwasaki, National Institute for Agro-environmental Sciences 3-1-3 Kannon-dai, Tsukuba, Ibaraki, 305-8604



写真2 1Fにある図書館案内板

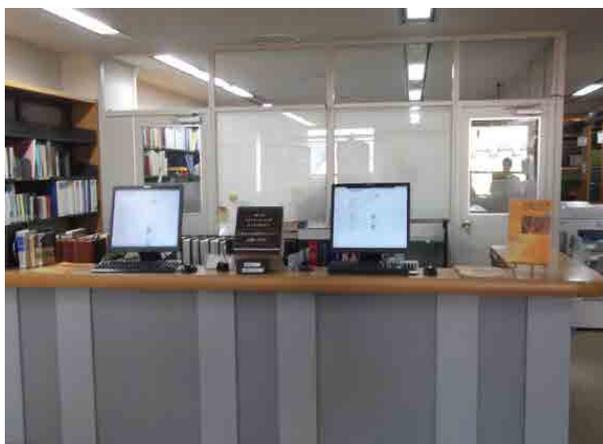


写真3 4Fのカウンター

館、南館図書室の3箇所、他に書庫があるほか、外部施設として白楽サテライトライブラリーと山中資料センター（両書庫は大学全体で使用）があります。新館は地上6階～地下5階（写真2）で、縦に長い施設であることが分かりました。旧館は地上5階～地下2階、南館図書室は南館という建物の一部（地下2階～地下4階）となっています。資料は全地区メディアセンター共通の図書館システムで検索できるようになっています（写真3）。

3. 図書資料分類・配架

分類は1種類ではなく、図書館図書はNDC（日本十進分類法）により分類されていますが、学部図書と呼ばれる各学部の予算で購入される研究書は、各学部の独自分類で分類されています。図書は新館の地下フロアや旧館などに配架されています。雑誌はタイトルのアルファベット順に配架されています。和雑誌の場合にもローマ字読みしてアルファベット順に並べられているとのこと

でした。洋雑誌は4階、和雑誌は3階に配架されており、両フロアには、データベースや電子ジャーナルを利用するための「ログイン端末」も設置されていました。これは大学のコンピュータアカウントを使ってログインする必要があるため、このように呼ばれているということです。

1階ラウンジには国内外合わせて約80紙が綴じられている新聞コーナー（写真4）がありました。また、2階には新聞縮刷版、EU資料、リザーブブックが配架されていました。

4. コレクションや企画展

グーテンベルク42行聖書（活版印刷術の発明者、ドイツ人ヨハン・グーテンベルグの手による世界初の印刷聖書、ほとんどのページが42行の行組みであったことから「42行聖書」とも呼ばれる。）、高橋誠一郎浮世絵コレクション、遠山音楽文庫や重要文化財の相良家文書（鎌倉～江戸時代）、対馬宗家関係資料（江戸～明治時代）、貴重書等を所蔵しており、スペシャルコレクションの管理は専任職員3人で対応しているとのことでした。

また、デジタルギャラリーのウェブサイト <http://project.lib.keio.ac.jp/dgkul/> において、福澤諭吉の初期版本や前述の高橋誠一郎浮世絵コレクション、インキュナブラコレクション等が専門家による解説と共に紹介され、義塾資料である「慶應義塾写真データベース」、学塾成果を発信する「慶應義塾大学学術情報リポジトリ:KOARA」などの取り組みに協力されています。

なお、1階には展示室があり、所蔵貴重書を中心に企画展を実施しているということでした。企画展は、



写真4 新聞コーナー

専任職員で構成される展示委員会で企画されますが、それ以外にも学内の研究所等から持ち込まれる展示企画もあるとのこと。訪問日には、福沢研究センターが企画した展示である「慶應義塾と戦争 I 慶應義塾の昭和十八年」展(期間:2013年12月2日～12月26日)の第1会場となっており、「塾長訓辞」(居常心得:昭和15年)、学徒出陣に際しての塾長告示、日章旗(惣那静夫)ほか沢山の資料を拝見することができ、とても勉強になりました。

5. おわりに

年末のお忙しい中、木下・佐藤両課長には取材の承諾から事前の資料準備等に際し、大変お世話になりました。

また、センターについての説明や館内案内をしていただき、約1時間半の取材となりました。今回も普段は入ることができない大学図書館施設を訪れることができ、とても有意義な時間を過ごせましたこと、紙面を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。

(文責:高橋 伸弘、木村 博)

ー 平成 25 年 10 月から 12 月に発表された図書館員に役立ちそうな情報を掲載します。業務の一助にお使ください。記事の情報源はそれぞれの項目ごとに明示してあります。ー

【レファレンス協同データベースに学校図書館が仲間入り】

(記事要旨)

国立国会図書館が全国の図書館等と協同で構築している「レファレンス協同データベース」に、2013 年 7 月より学校図書館・学校図書館関係団体が参加可能になりました。学校図書館は近年、調べ学習支援や、子どもの読書活動支援で注目を集めています。

* 情報源：国立国会図書館（プレスリリース）

平成 25 年 10 月 4 日

【国立国会図書館は、東日本大震災の記録・教訓を伝える取り組みを続けています】

(記事要旨)

東日本大震災に関するあらゆる記録・教訓を次の世代へ伝えることを目的とした、日本大震災アーカイブ「ひなぎく」は、関係する官民の機関との分担・連携・協力によって、随時、統合検索の拡大や新しい記録等を追加しています。NHK ラジオセンターが提供する被災した人々の証言へもアクセスできるようになりました。現在「ひなぎく」で検索できる資料は計 247 万点です。

* 情報源：国立国会図書館（プレスリリース）

平成 25 年 12 月 4 日

【「全国森林計画」が策定されました】

(記事要旨)

全国森林計画は、森林法の規定に基づき、農林水産大臣が、15 年を 1 期として 5 年ごとに定める計画です。森林の整備及び保全の目標、伐採立木材積や造林面積等の計画面量、施業の基準等を示すものであり、都道府県知事がたてる「地域森林計画」等の指針となります。今回、策定した全国森林計画は、平成 26 年 4 月 1 日から平成 41 年 3 月 31 日の 15 年を計画期間とする計画です。

* 情報源：農林水産省林野庁（プレスリリース）

平成 25 年 10 月 4 日

【6 次産業化の推進に向けた全国キャラバン】の開催

(記事要旨)

日本再興戦略において、2020 年に 6 次産業の市場規模を 10 兆円（現状 1 兆円）に拡大することが目標に掲げられています。この目標達成には、農林漁業成長産業化ファンドの本格展開や、地産地消の推進、輸出促進、バイオマスの活用等に取り組むことが重要です。このため、6 次産業化に関する施策の浸透を図るとともに、現場の取組・意見をより一層施策に反映させるなど、現場と連動した取組を進めていくため、全国の各都道府県で「6 次産業化推進全国キャラバン」を開催します。

* 情報源：農林水産省（プレスリリース）

平成 25 年 10 月 8 日

【平成 25 年度「若手農林水産研究者表彰」受賞者の決定】

(記事要旨)

農林水産省は、農林水産業及び関連産業に関する研究開発の一層の発展及び研究開発に従事する若手研究者（40 歳未満を対象）の研究意欲の一層の向上を図るため、優れた功績をあげた若手研究者を表彰し、農林水産技術会議会長賞を授与しています。平成 25 年度は、千葉県農林総合研究センター「イチゴ育苗圃の田畑輪換によるイチゴ萎凋病の防除」業績をはじめ、5 名の若手研究者が受賞しました。

* 情報源：農林水産省（プレスリリース）

平成 25 年 10 月 9 日

【平成 25 年度「民間部門農林水産研究開発功績者表彰」受賞者の決定】

(記事要旨)

農林水産省及び公益社団法人 農林水産・食品産業技術振興協会は、農林水産業その他関連産業に関する研究開発のうち民間が主体となって行っているものについて、その一層の発展及びそれに従事する者の一層の意欲向上に資するため、優れた功績をあげた者を表彰し、農林水産大臣賞ほか各賞を授与しています。平成 25 年度は、株式会社明治食機能科学研究所「免疫賦活多糖を産生する乳酸菌を活用した機能性ヨーグルトの開発」業績をはじめ、3 件の研究開発

が受賞しました。

* 情報源：農林水産省（プレスリリース）

平成 25 年 10 月 9 日

【平成 25 年度「農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業」の新規研究課題について】

農林水産業・食品産業の成長産業化に必要な研究開発を基礎段階から実用化段階まで支援するため、提案公募型の「農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業」を実施。事業では、基礎段階の研究開発を「シーズ創出ステージ」、応用段階の研究開発を「発展融合ステージ」、実用化段階の研究開発を「実用技術開発ステージ」として、研究開発を支援。また、優れた研究成果を創出した研究課題は、公募を通さずに次の研究ステージに移行できる仕組み（移行審査）を導入。

* 情報源：農林水産省（プレスリリース）

平成 25 年 10 月 15 日

【「放射性物質低減のための原木きのこ栽培管理に関するガイドライン」の策定について】

（記事要旨）

原木きのこについては、福島第一原子力発電所の事故に伴う放射性物質の影響により、地域によって出荷制限が指示されている状況にあります。このような中で、安全な原木きのこを安定的に供給していけるよう、放射性物質の影響を低減し、生産されたきのこが食品の基準値を超えないようにするための具体的な栽培管理方法をガイドラインとして策定しました。出荷制限が指示された地域については、本ガイドラインに基づいて栽培管理を行い、基準値を超えるきのこが生産されないと判断された場合に、出荷制限の解除が可能となります。

* 情報源：農林水産省林野庁（プレスリリース）

平成 25 年 10 月 16 日

【食品ロス削減国民運動（NO-FOODLOSS PROJECT）のロゴマークの決定とキャラクターの愛称の募集について】

（記事要旨）

農林水産省は、関係省庁（消費者庁、経済産業省、環境省等）と連携し、官民をあげた食品ロス削減国民運動（NO-FOODLOSS PROJECT）を展開します。我が国では、本来食べられるのに廃棄されている「食品ロス」が年間 500～800 万トン発生しています。世界で約 9 億人の人々が栄養不足状態にある中で、「もったいない」という言葉の発祥

地である我が国として、食品ロス削減にフードチェーン全体で取り組んでいくため、官民が連携して食品ロス削減に向けた国民運動を展開します。

* 情報源：農林水産省（プレスリリース）

平成 25 年 10 月 25 日

【歴史的風致維持向上計画の認定】

（記事要旨）

「地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律（通称：歴史まちづくり法）」は、地域の歴史的な風情、情緒を活かしたまちづくりを支援すべく施行されました。この法律は、我が国固有の歴史的建造物や伝統的な人々の活動からなる歴史的風致について、市町村が作成した維持向上のための計画を国が認定することで、計画に基づく法律上の特例や各種事業により市町村の歴史まちづくりを支援するものです。この度、計画認定申請があった、大阪府 堺市、山形県 鶴岡市及び宮崎県 日南市の歴史的風致維持向上計画について、文部科学大臣、農林水産大臣及び国土交通大臣が認定を行いました。

* 情報源：農林水産省（プレスリリース）

平成 25 年 11 月 22 日

【「気候変動枠組条約 第 19 回 締約国会議（COP19）」、「京都議定書 第 9 回 締約国会合（CMP9）」等の結果について】

（記事要旨）

平成 25 年 11 月 11～23 日、ワルシャワ（ポーランド）において「気候変動枠組条約 第 19 回 締約国会議（COP19）」、「京都議定書 第 9 回 締約国会合（CMP9）」等が開催されました。先進国における森林・農地等吸収源の取扱い、途上国における森林減少・劣化に由来する排出の削減等の取扱い、農業に関連する事項の議論が行われ、一連の決定が採択されました。

* 情報源：農林水産省（プレスリリース）

平成 25 年 11 月 26 日

【平成 26 年産米の都道府県別の生産数量目標について】

（記事要旨）

都道府県別の生産数量目標については、従来から、全国の生産数量目標を基に各都道府県ごとの過去 6 年（19/20 年～24/25 年）の需要実績中、中庸 4 年分の平均値で算出することを基本としており、全国の平成 26 年産米の生産数量目標は、765 万トン（面積換算すると 145 万 ha）

に決定しました。

* 情報源：農林水産省（プレスリリース）

平成 25 年 11 月 29 日

【「和食；日本人の伝統的な食文化」のユネスコ無形文化遺産保護条約「人類の無形文化遺産の代表的な一覧表（代表一覧表）」への記載に関する審議結果について】

（記事要旨）

平成 25 年 12 月 2～7 日、バクー（アゼルバイジャン共和国）で開催のユネスコ無形文化遺産保護条約の第 8 回政府間委員会において、「代表一覧表」に記載する案件についての審議が行われ、我が国から提案した「和食；日本人の伝統的な食文化」について、「記載（登録）」の決議がなされました。

* 情報源：農林水産省（プレスリリース）

平成 25 年 12 月 5 日

【「平成 24 年度 畜水産物中のダイオキシン類の実態調査」の結果について】

（記事要旨）

農林水産省は、「ダイオキシン対策推進基本指針」及び「食品の安全性に関する有害化学物質サーベイランス・モニタリング中期計画」に基づき農畜水産物中のダイオキシン類濃度の実態を調査しており、農林水産省は、「ダイオキシン対策推進基本指針」（平成 11 年 3 月ダイオキシン対策関係閣僚会議決定）及び「食品の安全性に関する有害化学物質サーベイランス・モニタリング中期計画」（平成 18 年 4 月 20 日、平成 22 年 12 月 22 日公表。以下「中期計画」という。）に基づき、農畜水産物中のダイオキシン類濃度の実態を調査しており、平成 24 年度においては畜産物及び水産物を対象に調査畜産物及び水産物を対象に調査し、結果を取りまとめました。

* 情報源：農林水産省（プレスリリース）

平成 25 年 12 月 5 日

【「2013 年 農林水産研究成果 10 大トピックス」の選定について】

（記事要旨）

この 1 年間に新聞記事となった民間、大学、公立試験研究機関及び独立行政法人研究機関の農林水産研究成果のうち、内容に優れるとともに社会的関心が高いと考えられる成果 10 課題を農業技術クラブ（農業関係専門紙・誌など 29 社加盟）の協力を得て選定しました。リンゴの摘果

が楽にできるハサミを開発—新しい 3 枚刃構造で手の負担を軽減—（生物系特定産業技術研究支援センター、岩手県農業研究センター、株式会社 サボテン共同開発）などの成果が選ばれました。各成果の詳細は「農林水産研究成果 10 大トピックス」のページ (<http://www.s.affrc.go.jp/docs/10topics.htm>) で紹介しています。

* 情報源：農林水産省（プレスリリース）

平成 25 年 12 月 16 日